

2月3日(金)現在

本県の新型コロナウイルスの感染状況は国評価レベル3(医療負荷増大期)です

「医療ひっ迫防止対策強化宣言」を発出中

実施期間:1月13日(金)~2月10日(金)

一人ひとりが**感染しない・させない**取組【**自助**】と
みんなで**拡げない**取組【**共助**】を徹底するようお願いします

新型コロナの1週間の新規感染者数は減少傾向にあります
が、10万人当たりの新規感染者数は全国平均と比べて非常に
多い状況にあり、また、**病床の利用率も60%を超えて**お
り、全く**予断を許さない**状況が続いています。

特に、コロナ受入病院におけるコロナ入院者や救急搬送困
難事案の件数は高い状態が続いており、本県の**医療提供体
制はひっ迫が非常に強まった**状況が続いており、**コロナ診療
ばかりでなく、通常診療にも影響が**でています。

県内の医療提供体制が崩壊しないために、「**医療ひっ迫防
止対策強化宣言**」を発出しています。

県民・事業者の皆様には、以下のご協力を求めます。また、本格的な受験シーズンです。受験生や
御家族の皆様は感染防止に細心の注意を払うようお願いします。

2月2日現在

入院患者数 A	病床数 B	病床利用率 A/B
628人	1,034床 ^{※1}	60.7%
	782床 ^{※2}	80.3%

※1 即応病床数(コロナ確保病床以外の病床数を含む)

※2 コロナ確保病床数

直近1週間の10万人当たり
新規陽性者数

382.9人

「医療ひっ迫防止対策強化宣言」における皆様へのお願い

(詳細は2枚目・3枚目をご覧ください)

①ワクチンの接種

新型コロナだけでなく、インフルエンザの患者も徐々に増加し、年末には2年9か月ぶりにイン
フルエンザの流行期に入りました。感染及び重症化を予防するため、ワクチン接種が可能な
方は、**新型コロナとインフルエンザのワクチンの接種**をお願いします。

②医療ひっ迫時の受診等

事前に市販の解熱鎮痛剤、風邪薬、コロナ検査キットを家庭に常備し、**症状が軽く重症化リス
クの低い方は、医療機関の受診を控え、自己検査をし、陽性の場合は登録し、自宅での療養を
お願いします。**また、自宅療養に備えて**食べ物や飲み物の備蓄**もお願いします。

③感染リスクの高い外出・行動の控え

年齢や重症化リスクの有無にかかわらず、**混雑した場所や感染リスクが高い場所への外出は
極力控え**、外出する場合であっても、大人数での行動や密集した場所・換気の悪い場所での飲
食や大声での会話など**感染拡大につながる行動は控える**ようお願いします。

特に、ご自身で「自分は重症化リスクがある」と判断されている方、重症化リスクがある人と
接する機会のある方、仕事や家庭の事情でできる限り感染を避けたい方、発熱やのどの痛み
等の自覚症状のある方は、**外出について、より慎重に判断**するようお願いします。

④会話や食事の際の適切なマスク着用

マスクを外しての会話や食事は同居する家族とのみ行っていただき、家族以外の方とは、必
ずマスク着用で会話し、会食はできるだけ少人数、短時間とし、**大人数での会食は、必要性を十
分に検討**の上、やむを得ず行う場合は、**感染防止に細心の注意を払う**ようお願いします。

⑤十分な換気の実施

感染力の強いオミクロン株に対して、換気は大変重要で効果が期待されます。冬場は暖房器
具の使用のため、窓を閉め切りがちになりますが、**室内温度に留意しながら、定期的**に窓を開
け換気を行うようお願いします。

県民の皆様へのお願い 【自助の取組】

○オミクロン株対応2価ワクチンの接種

- ・現在実施中の**オミクロン株対応2価ワクチンの接種**は、オミクロン株に対し、**従来型ワクチンを上回る重症化予防効果**とともに、**感染予防効果**や**発症予防効果**も期待されています。
- ・**重症化リスクのある人と接する方、旅行やイベントに参加する方は、ワクチン接種を積極的に検討**してください。
- ・なお、県の大規模接種会場(もくせい会館等)でも、オミクロン株対応2価ワクチンの接種を実施していますので、ぜひご利用ください。

県の大規模接種会場の
情報はこちら

○医療ひっ迫時の受診等

- ・緊急に診療が必要となる救急医療が滞ることがないように、**夜間・休日は、軽いかぜ症状**だけの場合は、**受診を控え、平日の日中にかかりつけ医など地域の医療機関を受診**してください。
- ・**症状が軽く、重症化リスクの低い方は、医療機関の受診を控え**、自己検査をし、陽性の場合には、自己検査・療養受付センターに登録し、そのまま**療養**してください。また、自宅療養に備えて**食べ物や飲み物の備蓄**をお願いします。
- ・入院病床が非常にひっ迫しています。医師から退院可能と言われたら次の方に病床を譲りましょう。

○マスクの着用の徹底

- ・**飲食の際にはマスクを外しての会話は同居する家族のみ**の場合とし、それ以外の方とは食べる時は会話をせず、会話する時は、必ず**不織布マスク**を着用するようお願いします。
- ・**大人数での会食は、必要性を十分に検討**の上、やむを得ず行う場合は、**感染防止に細心の注意**を払うようお願いします。
- ・飲食を伴わない場合でも、大人数、長時間の会話では、お互いに**不織布マスクの着用を徹底し、こまめな換気**を行ってください。



○旅行や移動の際の注意

- ・旅行や移動の際は、混雑した場所や換気の悪い場所、大勢の人が密集する場所など**感染リスクの高い場所への外出は極力控える**ようお願いします。
- ・ご自身で「自分は重症化リスクがある」と判断されている方、重症化リスクがある人と接する機会のある方、仕事や家庭の事情でできる限り感染を避けたい方、発熱やのどの痛み等の自覚症状のある方は、**外出について、より慎重に判断**するようお願いします。
- ・外出する場合は、マスク着用や手指消毒、室内換気を徹底するとともに、大人数での行動や密集した場所・換気の悪い場所での飲食や大声での会話など**感染拡大につながる行動は控える**ようお願いします。
- ・旅行などでは、普段生活を共にしていない方と接する機会が多くなりますので、**事前の検査やワクチン接種を行ってから外出**するようお願いします。特に、**重症化リスクの高い人がいる場所を訪問する際には、慎重な行動**をお願いします。



○イベント(催事)への参加の際の注意

- ・イベント(催事)に参加する場合は、マスクの着用を徹底するとともに、事前に検査やワクチン接種を行ってから参加するようお願いします。また、**発熱やのどの痛み等の自覚症状のある方は参加を取りやめる**ようお願いします。
- ・大勢の人が密集したり、大声をあげるイベントへの参加は、特に慎重に判断してください。



事業者の皆様等へのお願い 【共助の取組】

○事業所(飲食店や集客施設を含む)における取組

- ・事業者の皆様は、職場や店舗等における基本的な感染防止対策の徹底、特に**定期的な換気**、**飛沫防止対策**、**消毒を徹底**するようお願いいたします。
- ・事業所内では、「**居場所の切り替わり**」での**感染防止対策**や、テレワーク、リモート会議、時差通勤など、人との接触を低減する取組などを一層推進してください。
- ・**飲食などマスクを外す場面を伴う場所**では、**座席間隔の確保**や**パーティションの設置**など密を回避し、十分な換気を行うなど、**念入りに感染防止対策を行う**ようお願いいたします。
- ・医療機関のひっ迫を回避するために、従業員が発熱等で休暇を取得する際に、新型コロナ又はインフルエンザの**検査結果を証明する書類や診断書を求めないでください**。また、従業員が職場復帰する際に**検査の陰性証明や治癒証明を求めないようお願いいたします**。
- ・感染拡大に伴う欠勤者の増加を前提とした業務継続体制の確保や一時的に業務が実施できない場合の対応の検討を進めてください。



○学校等における取組

- ・学校や保育所等では、マスクの着用、こまめな換気など基本的な感染防止対策の徹底、感染リスクの高い行動の回避に努めてください。
- ・職員や児童・生徒等に何らかの風邪症状がある場合については、部活動や課外活動も休み、市販薬(咳どめ・解熱剤等)を服薬するなど、自宅で静養してください。

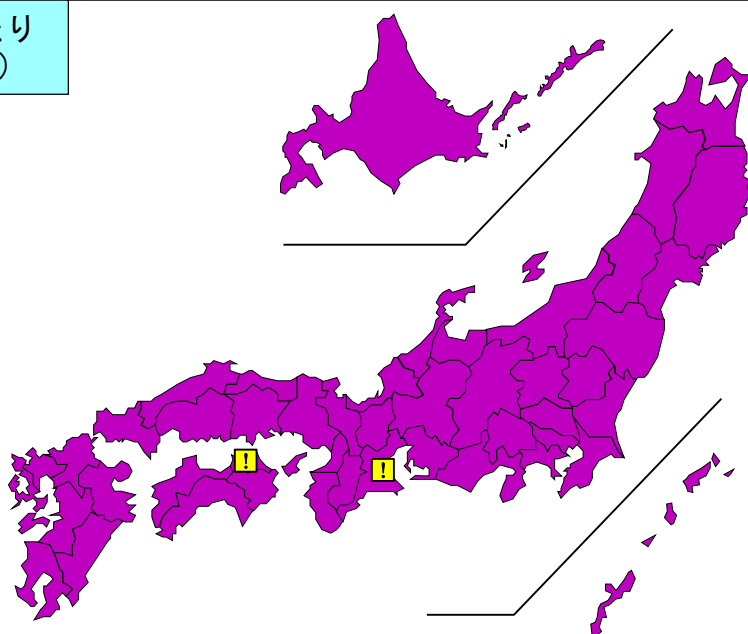
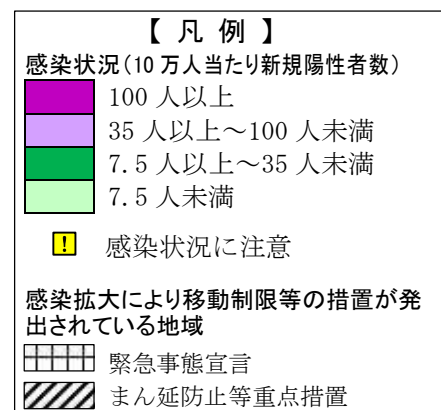
○福祉施設等での取組

- ・福祉施設等の事業者の皆様は、県から配布された抗原定性簡易キットを活用して週に2度の定期検査を行い、陽性者の早期発見にご協力願います。

○イベント(催事)における留意事項

- ・イベント(催事)の主催者の皆様は、**3密の回避**、**こまめな換気**や**消毒**など基本的な感染防止対策の徹底とともに、**参加者の行動管理**に努めてください。
- ・**参加者に対して、マスクの着用や手指消毒、感染リスクの高い行動への注意を促す**とともに、**発熱者等の入場禁止**に努めてください。
- ・参加人員 5,000 人超かつ収容率 50%超のイベントを開催する場合は、県に具体的な感染防止策を記載した「感染防止安全計画」を提出してください。

全国の直近 1 週間 10 万人当たり
新規陽性者数 (2月2日現在)



※ は、10万人当り新規陽性者数が全国平均より1.5倍以上の都道府県

次回発表予定 令和5年2月10日(金)

※上記発表前でも必要に応じて随時発表する場合があります

マスクは常に携帯しましょう！ 場合別マスク着用の参考表

周囲の人の状況 屋内/屋外	自分1人のみ	同居人のみ	同居人以外の人々 (事例の赤字は国通知の事例)			
			2 m以上離れている		2 m以内にいる	
			ほとんど会話無し	会話・発声あり	ほとんど会話無し	会話・発声あり
屋内 ※1	不要 例) 1人で部屋で過ごす	不要 例) 家族で居間で団らん	不要 例) 図書館で席を離れて座り自習	推奨※2 例) 離れた席でおしゃべり	推奨 例) 通勤電車・バスの中	推奨 例) 狭い会議室での会議、カラオケ、麻雀
屋外	不要 例) 1人で散歩や自転車	不要 例) 家族でハイキング	不要 例) 静かにランニング・サイクリング・釣り	不要 例) 密にならない外遊び・テニス	不要 例) 徒歩通勤、静かな行列、野外観劇	推奨 例) 繁華街・観光地の人混み、友人とBBQ、球技観戦

* 就学前の子どもは、マスクは原則不要

* 高齢者や基礎疾患のある人、またはそのような方と接する人は、マスク着用を推奨

* マスク着用なしで咳やくしゃみをする際は、口鼻をハンカチやそででおおう
(咳エチケット)

※1 ; 車内(電車、バス、自家用車等)を含む

※2 ; 十分な換気等の感染対策をしている場合はマスクを外すことも可



マスクは いつも かばんに 入れる! マスクを つける つけない

まわりの ひと いえ・のりもの または そと	じぶん だけ	かぞく だけ	かぞくではないひとたち			
			2めーとるよりも とおい		ふとん 2めーとる 2めーとるよりも ちかい	
			しゃべらない	しゃべる	しゃべらない	しゃべる
たてものや のりもの なか 	 へやに いる	 かぞくで てれび	 とおくに はなれて しずかに どくしょ	 ※ とおくに はなれて しゃべる	 ひとが おおい でんしゃ、ばす	 せまい へやで、 しゃべる、うたう
たてものの そと 	 さんぽ	 かぞくで さんぽ	 らんにんぐ、 じてんしゃ、むしとり	 おにごっこ、 どっじぼーる	 あるいて がっこう へ いくとき	 ひとが たくさん いる ところ

* しょうがっこうに はいる まえの こどもは、マスクは いらぬい (したい こどもは してよい)

* おとしよりや びょうきの ひと、その ひとに あうとき、びょういんに いくときは、マスクを する

* マスクなしで せきや くしゃみを する ときは、くち はなを はんかちや ふくで おさえる

※ かぜが おおく はいる へやでは、マスクを はずしても よい

国評価レベルの判断基準

令和4年12月16日 改定

国評価 レベル	状況(国の例示等)				本県の 指標と目安値
	保健医療の負荷	最大確保 病床使用率	社会経済 活動	(参考) 感染状況	
4 医療機能 不全期	<ul style="list-style-type: none"> 発熱外来や救急外来で対応しきれず、一般の外来にも患者が殺到 通常医療も含めた外来 医療全体がひっ迫し、機能不全の状態 入院が必要な中等症・重症者の絶対数が著しく増加。医療従事者の欠勤と相まって、入院医療がひっ迫 入院できずに、自宅療養中に死亡する者が多数発生 通常医療を大きく制限せざるを得ない状態(重点医療機関における医療従事者の欠勤急増) 	病床使用率 重症病床使用率 概ね 80%以上	欠勤者が膨大な数になり、社会インフラの維持にも支障が生じる可能性	今冬の新型コロナウイルス感染者の想定を超える膨大な数の感染者が発生	【感染状況】及び【保健医療の負荷の状況】 今後の感染状況等を踏まえ設定 【社会経済活動の状況】 県内の複数の公共交通機関において、新型コロナの影響で従業員が欠勤したことによる減便が生じた場合
3 医療負荷 増大期	<ul style="list-style-type: none"> 外来医療の負荷が高まり、発熱外来や救急外来の多くに患者が殺到する、重症化リスクの高い方がすぐに受診できないという事象が発生 救急搬送困難事例の急増 入院患者も増加し、また医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる(重点医療機関における医療従事者の欠勤急増) 	病床使用率 重症病床使用率 概ね 50%以上	職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者も多数発生	医療の負荷を増大させるような数の感染者が発生	【感染状況】 (2⇒3への移行) 1週間新規感染者数の前週比1.0倍以上が継続 【保健医療の負荷の状況】 ①コロナ受入病院入院者 400人以上 ②病床使用率 (最大確保病床に対して) 50% ③コロナ受入病院の医師・看護師休職者数 300人 ④発熱外来の行政検査数 21,000件/週 ⑤救急搬送困難事案件数 40件/週 【社会経済活動の状況】 具体的な目安値等は設定せず個別に判断
2 感染拡大 初期	<ul style="list-style-type: none"> 診療・発熱外来の患者数が急増し、負荷が高まり始める 救急外来の受診者数も増加 病床使用率、医療従事者の欠勤者数も上昇傾向 	病床使用率 概ね 30~50%	職場で欠勤者が増加し始め、業務継続に支障が生じる事業者も出始める	感染者が急速に増え始める	【今後の感染状況等を踏まえ設定】
1 感染 小康期	<ul style="list-style-type: none"> 外来医療、入院医療ともに負荷は小さい 	病床使用率 概ね 0~30%	—	感染者は低位で推移、又は徐々に増加している状態	—